

レポート 令和5年度「自衛消防技術競技会」に参加しました

2023年10月25日（水）、阿倍野消防署の所轄内施設（ホテル・商業・病院・事業所等）が組織する「自衛消防」による火災初動訓練として技術競技会が開催されました。その模様をレポートいたします。（文責：総務課・廣中）

競技会は各施設の職員（社員）が2名1組となり、「火災初動訓練」「屋内消火栓訓練（1号屋内消火栓および2号屋内消火栓）」それぞれの総合所要時間（減点方式）により順位をつけるというもので、出場者は総勢50名。当日は秋晴れの中、当院からは火災初動訓練に4階・前田看護師と手術室・河原崎看護師が、屋内消火栓訓練には、日本管財（株）から防災センター・長平さんと設備・前田さんが出場しました。

○火災初動訓練

事業所の1階で出火、2階に来訪者がいる状況で想定した操法

《POINT》

2名の自衛消防隊員で協力し「119番通報・2階にいる来訪者の避難誘導」を行い消火器による初期消火



火災初動訓練は、
11チーム中「2位」
屋内消火栓（2号）訓練は、
3チーム中「2位」
という素晴らしい成績をおさめました！



○屋内消火栓訓練

事業所の1階から出火し消火器では消火不能との想定により、自衛消防隊員2名が協力して屋内消火栓による初期消火を行う操法

《POINT》

2名の自衛消防隊員で協力し「119番通報・いかにして素早く消火場所までホースを延長し消火するか」



結果



「いのち」を救う消火活動に順位をつけたくはありませんが、競技会であり「通報・操作方法・役割」等を見直すよい機会であったと思います。

ご報告 第2回大阪鉄道病院がんサロンを開催しました

2023年11月7日、第2回目となる大阪鉄道病院がんサロン「ぶらっと」を開催いたしました。当日は、当院の精神神経科部長である江村成就より、「睡眠について」のお話の後、和やかな雰囲気の中で日頃感じている思いなどを語り合いました。コロナ5類移行に伴う久しぶりの開催となりましたが、多くの方々にお越しいただきました。また、次年度も行う予定ですので、お気軽にご参加ください。



“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

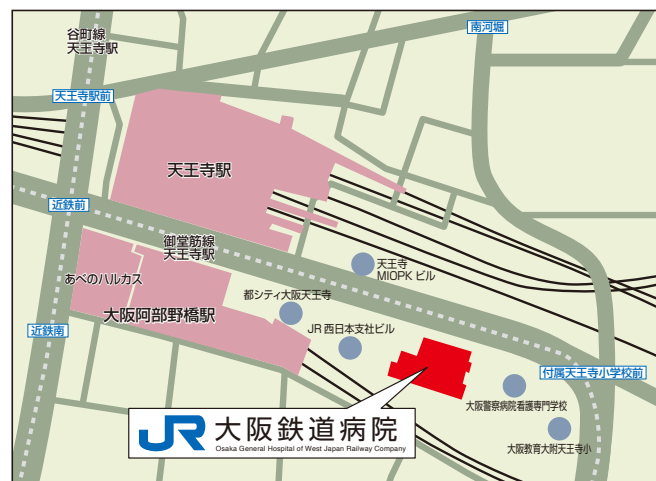
【基本方針】

安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221（代表）FAX.06-6628-2287（代表）
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ <http://www.jrosakahosp.jp>

受付時間／午前8時30分～午前11時00分 診療開始／午前9時00分～
休診日／土日祝・年末年始（12月30日～1月3日）



「診療科 UPDATE」

消化器・一般外科

ドクターインタビュー

部長 玉井 秀政

Doctor's Eye

副部長 大陽 宏明

volume

23

2024.2

ぽっぽニュース

レポート

ご報告

令和5年度「自衛消防技術競技会」参加
第2回大阪鉄道病院がんサロン開催

Radiation Station
MRI検査と機能性肌着について

栄養室コラム
ストレスに負けない身体を作ろう！

JCEP（卒後臨床研修評価機構）の認定取得

肝炎医療コーディネーターの活動

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company



大阪鉄道病院消化器・一般外科の特徴と取り組みをご紹介します。

消化器全般を主とした外科治療
消化器の良性・悪性疾患、外傷処置など、各疾患の外科治療を中心にしています。

ドクターインタビュー

部長 玉井 秀政 (たまい ひでまさ)

患者さん一人一人に寄り添う
「過不足のない外科治療」が基本です。



+α 免疫療法を学んだ経験

外科を修めたのち、2004 年から約3年間、当時から免疫療法の先端であったアメリカのグリーブランドクリニックに留学していました。外科医でありながら最先端の免疫治療を究めた経験は、現在の集学的治療において生かされていると思います。

—現在、大阪鉄道病院消化器・一般外科で取り組んでいる治療について、具体的に教えてください。

当院では、主として以下のような疾患の治療に取り組んでいます。

・消化器の悪性腫瘍（食道、胃、結腸、直腸、肝臓、胆嚢、膵臓のがんなど）

がん治療に関しては、ガイドラインに基づき、手術治療を基本に抗がん剤や分子標的治療薬を用いた化学療法や放射線科と連携した集学的治療にも積極的に取り組んでいます。

・一般外科の良性腫瘍（鼠径・腹壁瘢痕ヘルニア、内外痔核、直腸脱など）

・腹部の緊急疾患（急性虫垂炎、胆石症、胆嚢炎、消化管穿孔、腸閉塞、外傷など）

その他、中心静脈ポート増設術、リンパ節生検術などにも対応しています。

専門分野／消化器・一般外科
資格／日本外科学会認定外科専門医・指導医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、近畿外科学会評議員、日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、ICD (Infection control doctor)

—治療の方針を聞かせてください。

大きな方針は「根治性」「低侵襲性」「機能温存」「集学的治療」の4つです。

「根治性」とはがんを身体から完全に切り除くことであり、手術を行う外科医として最も大切にしなければいけないことと考えています。そのためには、がんの進行度に応じて再発・転移がないよう周囲の組織や臓器を切除しながら、機能を温存するために神経は残すといった「過不足のない治療」が必要です。また、患者さんの過大な負担にならないよう、一人一人の症状や体調に合った治療法（手術、化学療法、その他）をご本人やご家族とともに選択していきます。

「低侵襲性」においては、身体への侵襲の少ない内視鏡外科手術に積極的に取り組み、良好な成績をおさめています。この術式は、従来の大きく切開する開腹手術に比べて痛みや身体への負担が少なく、早期退院・早期社会復帰が可能です。当科の内視鏡外科手術は、日本内視鏡外科学会技術認定医が中心となり執刀および指導管理することで、安全性と良好な手術成績を担保しています。

「機能温存」は、根治性が損なわれない範囲で温存できる機能は極力残す努力をしています。例えば直腸がんに対する肛門の温存や、骨盤神経叢の温存による排尿障害の予防などが、術後の患者さんのQOL改善に大きく寄与しています。

—「機能温存」は比較的新しい概念ですね。

そうですね。かつてがんの手術では、根治性を第一に考え、失われる機能についてはあまり重視していませんでした。しかし、医療の進展とともに、可能な限り考えるようになってきましたね。

—「集学的治療」も、医療の進展にともない実践が進んでいますね。

はい、近年の抗がん剤をはじめとした化学療法や放射線療法の進歩は著しく、その奏効率（効果が出る割合）も改善されています。当院でも化学療法や放射線療法を手術に組み合わせた集学的治療を実施しています。定期的に外科医、消化器内科医、放射線科医、病理診断科医、看護師、薬剤師と多職種の合同カンファレンスを行い、各学会で規定されたガイドラインに準じた適正な治療法とともに個々の患者さんの治療方針を十分に検討し、最善の医療を提供できるように努めています。その結果をもとに、個人の症状に合った治療法を選択しています。がんのステージによっては術前や術後に補助化学療法を施行しますし、手術が困難ながんに対しても、化学療法や放射線療法でステージを下げて手術が可能になることもあります。

—各専門分野の知恵を集結して患者さんに応じた治療を実践することが、治療成績の向上につながっているのですね。消化器・一般外科の医師として徹底されていることはありますか。

スタッフはそれぞれ得意な分野を持っていますが、常にどの分野でも、「過不足のない外科治療」を提供できるよう、最新の知識習得および技術向上に日々努めています。また、常に患者さんに丁寧な説明と治療を行うよう心がけています。

—コロナ禍の手術においては、さまざまな影響があったと思うのですが。

感染による手術スケジュールの変更が多く、スムーズに対応する工夫が必要でした。また、手術前後や入院時の面会が制限されるなかで、患者さんのメンタルの安定のため、病棟のスタッフが少しでもお力になれるよう配慮を続けています。

外科全体としては、受診控えのためか、診療にいられた時点でステージが進んでいらっしゃる患者さんが増えた印象です。治療の可能性を広げるべく最善の対応をしてまいります。

—地域医療との連携についてお聞かせください。

がん治療をはじめ、かかりつけ医の先生方との連携は、今後ますます重要になっていきます。こちらからお願いすることはもちろん、先生方が経過観察に悩まれるケースや時間外の急変など、フォローが必要な場合は迅速に対応できるよう努めます。これからも患者さんの情報を共有しながら、最適な外科治療の提供を目指してまいります。

—ありがとうございました。

【退院患者さんの疾病内訳】2022 年度 （件数）

結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍	(99)
鼠径ヘルニア	(90)
乳房の悪性腫瘍	(87)
直腸肛門（直腸 S 状部から肛門）の悪性腫瘍	(43)
その他の感染症（真菌を除く）	(41)
胆嚢疾患（胆嚢結石など）	(41)
胆嚢炎等	(35)
胃の悪性腫瘍	(34)
虫垂炎	(27)
ヘルニアの記載のない腸閉塞	(23)
腹膜炎、腹腔内腫瘍（女性器臓器を除く）	(17)

【主要手術実績】2022 年度 （件数）

腹腔鏡下胆嚢摘出術	(74)
鼠径ヘルニア手術	(53)
腹腔鏡下結腸直腸悪性腫瘍切除術	(50)
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	(38)
乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わない）	(30)
抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	(12)
腹腔鏡下胃全摘出術・切除術・噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術）	(20)
乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）（乳腺全摘術）	(10)
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩部郭清を伴わない）	(10)
乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴う）	(8)
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲腫瘍を伴うもの）	(8)

大腸がんの治療

副部長 大陽 宏明 (たいよう ひろあき)

専門分野／消化器・一般外科

資格／日本外科学会認定外科専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科）

大腸の腹腔鏡下手術を中心に

当院に赴任して、もうすぐ 2 年になります。当院はスキルの高い医師が多く、学び多き日々です。

私自身は、以前より日本内視鏡外科学会技術認定医として、大腸の腹腔鏡下手術を中心に取り組んできました。腹腔鏡下手術は低侵襲性にすぐれ、患者さんの身体的ダメージを最小限にとどめることができます。また医師にとっても、肉眼では見えない小さな血管や神経もモニター越しにしっかりと確認して避けながら手術ができるというメリットがあります。今後も各自が技術の研鑽に努めることはもちろん、可能な限り最新の技術や機器を投入し、患者さんにいっそうの安心を提供したいと思っています。

直腸がんの術前治療

集学的治療の一貫として、当院では 2017 年より直腸がんに対してまず放射線治療と化学治療を行い、腫瘍を小さくしてから手術を行う「術前補助化学放射線療法」に取り組んでいます。直腸がんの中でも治療の適応が可能と判断した症例のみになりますが、困難とされていた肛門の温存や周囲のリンパ節への転移の抑制、手術の低侵襲化など、期待できる効果は大きい治療法で、開始以来、10 例を手がけてきました。

がんが完全消滅することも

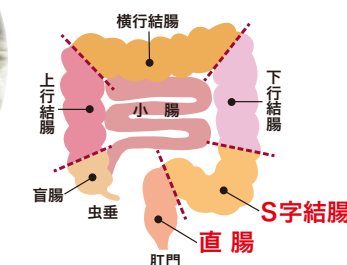
現在注目されているのは、この術前治療で 2 割程度の方のがん細胞が完全に消滅することです。当院でも 10 例中 2 例、がんが消滅したケースがあります。そうなる外科でありながら手術を回避し経過観察することになります。いわば究極の低侵襲治療で、人工肛門にもならず、何ら機能の欠損もなく、今のところ再発もなく生活できている患者さんがいらっしゃるということです。まだ新しい治療なので、経過を含め、慎重に観察していく必要がありますが、機能温存、根治という両面で将来的にも希望のある治療だと思っています。

もっともがん治療はすべての患者さんに同じ効果が現れるわけではありません。チームで連携をとりながら、医師として常に新しい情報、新しい技術とその検証を怠らず、患者さん個々に応じた「過不足のない治療」を目指して精進を続けたいと思います。



＜大腸がんの発生場所＞

直腸と S 字結腸が多く、この 2 か所で全体の半分を占めます。



STAFF

上田 祐二 (うえだ ゆうじ) 院長

専門分野／消化器・一般外科

資格／日本消化器外科学会認定指導医、消化器外科専門医・認定医、日本外科学会認定指導医・外科専門医・認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医・指導責任者、日本臨床外科学会評議員、近畿外科学会評議員、京都府立医科大学臨床教授（消化器外科学）、日本交通医学会理事、日本医師会認定産業医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、大阪府医師会勤務医部会常任委員、大阪市阿倍野区医師会理事、日本医療マネジメント学会大阪支部幹事

赤見 敏和 (あかみ としかず) 診療部長、消化器・一般外科部長、乳腺外科部長（兼）

専門分野／消化器・一般外科

資格／日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医、日本外科学会認定外科専門医・指導医、近畿外科学会評議員

荻野 史朗 (おぎの しろう) 感染制御部長

専門分野／消化器・一般外科、下肢動脈瘤

資格／ICD (Infection control doctor)

小見山 聡介 (こみやま そうすけ) 医長

専門分野／消化器・一般外科、腹腔鏡下手術

資格／日本外科学会認定外科専門医、日本消化器外科学会認定消化器外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科 胃）、近畿外科学会評議員

坂井 利規 (さかい かづき) 医長

専門分野／消化器・一般外科

資格／日本外科学会認定専門医、日本消化器外科学会認定消化器外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、検診マンモグラフィー読影認定医、日本透析医学会認定透析専門医

肝炎医療コーディネーターの活動

当院では今年度、消化器内科肝臓専門医 2 名、肝炎医療コーディネーターの看護師 4 名、MSW (医療ソーシャルワーカー) 1 名からなる「肝炎チーム」が発足し、肝炎の周知と適切な治療のための取り組みを開始しました。来年度からは規模を拡大し薬剤師、臨床検査技師、医師事務のメンバー入りの予定で、多職種によるさらに充実した活動が期待されます。そこで今回は、肝炎医療コーディネーターより活動について報告させていただきます。



看護師 折田 ルミ 看護師 大谷 澄子

肝硬変・肝がんへの移行者を減らすことを目標に

肝炎医療コーディネーターは、肝炎患者さんが適切な肝炎医療や支援を受けられるように、医療機関、行政機関、地域や職域の関係者間の橋渡しを行います。肝炎ウイルス検査の受検、検査陽性者の早期の受診、肝炎患者の継続的な受療の促進、行政や医療機関によるフォローアップが円滑に行われるようにすることを役割とし、ステップに応じた対策に取り組んでいます。



肝炎チーム

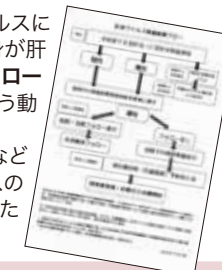
これまでの活動とその成果

肝炎対策のステップ	大阪鉄道病院・今年度の取り組み
ステップ0 「予防」 - 肝炎に関する基本的な知識の普及・啓発 - B 型肝炎ワクチンの定期接種 - 相談窓口の案内	7 月 24 日～30 日の肝臓週間に合わせて、大阪府市から取り寄せた資料（広報ツール）を使用し、肝炎受検の啓発活動を行いました。また、厚生労働省の肝炎プロモーター事業に参加し、活動報告をしました。
ステップ1 「受検」 - 肝炎ウイルス検査の受検勧奨 - 検査が受けられる医療機関、検査機関の紹介	
ステップ2 「受診」 - 肝炎検査陽性者への受診勧奨 - 専門医療機関や拠点病院、肝疾患相談の紹介 - 初回精密検査や定期検査費用助成の案内	過去 2 年間にさかのぼり、B 型・C 型肝炎検査陽性患者さんに対し追跡調査を行った結果、半数の患者さんが陽性的ままフォローがされていないことがわかりました。そこで肝炎ウイルス検査を実施した診療科が患者さんに文書を用いて説明できるよう、「 肝炎ウイルス検査結果通知書 」を作成しました。陽性の患者さんの希望があれば、肝臓専門医を受診できる仕組みをつくりました。
ステップ3 「受療」 - 医療費助成や障害者手帳等の制度の案内 - 服薬指導 - 仕事と治療の両立支援 - 抗ウイルス治療後の定期受診の勧奨	肝炎ウイルス検査陽性者の初回精密検査費用助成や肝炎医療費助成制度についての情報提供や、近隣薬局との連携で服薬指導・副作用モニタリングを実施し、B 型・C 型肝炎の薬剤治療を行う患者さんが安心して治療を継続できるよう取り組んでいます。
目標／肝硬変・肝がんへの移行者を減らす	

＜肝炎医療コーディネーターの思い＞

肝炎ウイルス陽性患者さんはそのまま放置していると肝硬変、肝がんへと進行してしまいます。しかし肝炎ウイルスについての情報は、まだまだ周知浸透していないというのが実感でした。私たちが活動を行うことで、まずは自分自身が肝炎ウイルスに感染しているかも？という疑問をもっていただけるきっかけになればと思います。同時に、院内でもフロー図や肝炎ウイルス検査の結果通知書を作成するなど、対応への意識を高め必要な諸検査・治療に結びつけられるよう動いています。

治療にあたっては、治療薬の副作用や医療費などへの不安をもつ方も少なくありませんが、薬剤や医療費助成など必要な情報を提供するなどでサポートができます。活動を通じて治療の継続フォロー、そして治療によってウイルスの陰性化ができれば、これ以上の喜びはありません。頼もしいチームメンバーとともに、今後も活動に力を入れていきたいと思っています。



よりすぐれた医師を 養成する病院へ。

大阪鉄道病院は 2023 年 12 月 1 日付けで JCEP（卒後臨床研修評価機構）の認定を受けました。



臨床研修支援部 足立知香

JCEP とは NPO 法人卒後臨床研修評価機構の略称。臨床研修病院におけるプログラムの評価や研修状況の評価を行い、厳格な基準をクリアした病院に認定証を発行しています。臨床研修病院として研修医を受け入れてきた当院でも、教育体制のさらなる充実を志して体制を整え、昨年 12 月に認定を取得することができました。認定に至るまでの 2 年間、臨床研修支援部として担当医師とともに準備に奔走した足立が、その苦勞と喜びを語ります。



研修医をいかに育てるかという課題

よい医師を育て送り出すということが、臨床研修病院の使命であり、JCEP の目的です。研修医は 2 年の研修期間を終えてすぐに医師としてひとり立ちしなければなりません。その間に医師としての基本的価値観や使命の遂行に必要な資質・能力を身につける必要があります。➤

そのために指導医が中心となり年間を通して勉強会や講習会の開催、更に研修医がやりたいことをやれる環境を提供することを大切にしました。また、事務の立場からは、接遇や身だしなみ等、社会人としての基礎を身につけてもらえるように力を注いでいました。✔

取り組みから得られたもの

受審にあたっては、足りていない部分への気づきや新しく取り組んだことが多く、より充実した教育体制の整備と確立ができたことが最大のメリットです。指導医や上級医、コメディカルも含め、病院全体で研修医を育成するという意識が高まりました。その甲斐あって、書面調査と訪問調査によって行われた評価判定では、とても高い評価をいただけたことが励みになりました。無事に認定をいただき、私個人としては、多くの方から労いの言葉をかけていただけたことが嬉しかったです。ともにがんばってくださった清水統括副院長、玉井部長にも、感謝したいと思います。

今後も継続していくには相当な力が必要になると思いますが、



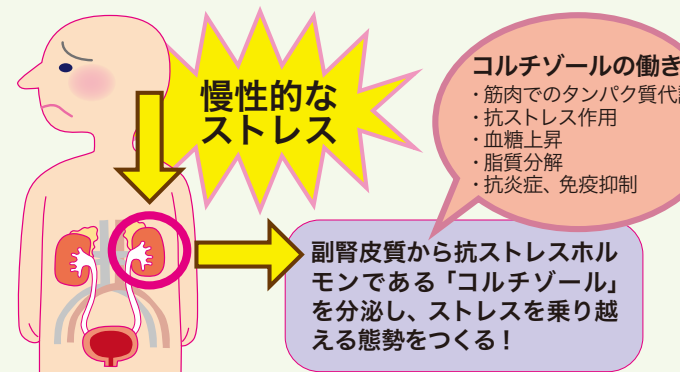
プログラム責任者
前任の清水誠統括副院長、後任の玉井秀政消化器・一般外科部長とともに

栄養室 コラム

ストレスに負けない身体を作ろう！

ストレスがかかると、特定の栄養素を消費して身体を守ろうとするため、その栄養素が不足して免疫力が弱まり体調不良のもとになってしまいます。ちょっとストレスが多いかな、と思う方は特に意識して、十分な栄養を摂取するようにしましょう。

鍵を握るのは「コルチゾール」の分泌



ストレス由来の食欲に注意！

コルチゾールには食欲を抑えるホルモンの分泌を減少させる働きがあるため、ストレス環境下では食欲が増える傾向があります。ストレスがたまっているとつい甘いものや脂っこいものが欲しくなりますが、体が脂質や糖質を代謝するときにビタミン B 群を消費してしまうため、おすすめできません。ビタミン B 群が不足すると代謝が滞り、さらに疲れがたまる原因になってしまいます。おやつであれば果物やヨーグルトなど、必要な栄養素を補給できるものを選ぶようにしましょう。

おすすめのおやつ 例) ヨーグルト 果物 焼き芋 ナッツ

●たんぱく質

コルチゾールの作用により、たくさんのたんぱく質が分解されるため、補給が必要。

多く含む食品：肉 魚 卵など

●ビタミン C、E、B 群

コルチゾールの合成に必要。特にビタミン C は副腎皮質での消費量が多いため不足しやすい。

ビタミン C：野菜や果物に多い

特にブロッコリー／赤ピーマン／キウイ／いちご

ビタミン E：油脂類や種実類に多い

特にオリーブオイル／アーモンド／かぼちゃ

ビタミン B 群：様々な食材に含まれている

肉類／レバー／魚類／牛乳・乳製品／卵など

ストレスと喫煙

ストレスを紛らわせる手段としてたばこを吸う人もいますが、喫煙は体内のビタミン C を大量に消費してしまい、ストレスを増加させてしまいます。たばこは「百害あって一利なし」です。余計なストレスを増やさないためにも禁煙を進めていきましょう。

Radiation Station

放射線部門

MRI 検査と機能性肌着について

なぜ MRI 検査で機能性肌着を着ていてはいけないの？

寒い季節に MRI の検査を受けるとき「機能性肌着（例えばヒートテック）などの暖くなる肌着は脱いでください」と説明があります。「なぜ、着たまま検査できないの？」と思われたことはありませんか。今回は、その理由についてご説明いたします。

機能性肌着の仕組み

人は、何もしていない状態でも常に肌から水分（水蒸気）を放散しています。この水蒸気が繊維でこすれると熱を発生させることがわかっています（吸湿発熱）。一般的な機能性肌着は、化学繊維素材をかけあわせることでこの「吸湿発熱」機能をパワーアップしたものです。肌から放散される水蒸気を吸着し、その際に発生する「吸着熱」を閉じ込めて保つことで、温かい着心地を実現しています。

機能性肌着

NG の理由

MRI 検査中に体温上昇が起こると、体温調節のため肌から放散される水蒸気が多くなります。機能性肌着は熱を保持する機能がいため、温度上昇がより起こりやすくなり、汗もかきやすくなります。機能性肌着は水分を蒸散させることなく衣類に吸水するため、通常より衣類が湿ります。そこに MRI の磁場エネルギーによって誘導電流が流れ、ごくまれに熱く感じる場合があります。



MRI 検査

体温上昇→

発汗←誘導電流

検査着の着用が安全安心

以上のような理由で、“機能性肌着”は脱いで検査を受けていただくことになります。現在は多くのメーカーからさまざまな名称で機能性肌着が出ているため、見ただけでは機能性肌着かどうかかわからないこともあります。当院の MRI 検査では、念のため肌着を脱いで検査着に着替えていただき、検査を行っています。

検査着

